

『幼々新書』引用医籍の検討

堀田 広満¹⁾, 小曾戸 洋²⁾, 花輪 壽彦¹⁾¹⁾北里大学東洋医学総合研究所 漢方診療部, ²⁾北里大学東洋医学総合研究所 医史学研究部

『幼々新書』(劉昉, 1150年)は全40巻, 547門, 約90万字からなる大部の小児科全書である。現伝する南宋初刊本は国立公文書館所蔵, 巻38の1冊(以下, 宋版零本)のみである。また宮内庁書陵部が蔵する宋版に基づく明抄本(以下, 宮内庁本)は、『経籍訪古志』が「幼々新書四十巻, 目録一卷, 明人墨書真本, 楓山秘府蔵」と記すように全巻を完存する。宮内庁本を宋版零本と校合した多紀元堅が, 多紀家転写本の末尾に「是書, 宋槧第三十八巻一本, 其字行之数, 正相同, 知是明人從宋槧謄録者」と記す如く宮内庁本は宋版に拠って転写したものであろう。よって『幼々新書』には数種の伝本があるが, 本書の全体像を把握するには宮内庁本が最善と考える。『幼々新書』にはそれ以前の古医書が多数引用されており, 古医書の書誌研究資料としても有用である。今回底本を宮内庁本として, 『幼々新書』が引用する医籍の索引を作成し, その成立過程を検討した。

引用書名および人名の数は各々170, 70を超え, 引用箇所総数は細字を含めると9,600超であった。主なものを列挙すると, 『黄帝内経』17箇所(以下, 省略), 『華佗九候論』3, 『傷寒論』3, 『金匱要略』13, 【張仲景】44, 『顛頤経』71, 【王叔和】3, 『徐王効方』4, 『隱居効方』3, 『肘後備急方』164, 『難経』1, 『元中記』1, 『短劇』6, 【王珉】2, 【陶弘景】31, 『諸病源候論』261, 『集驗方』17, 『崔氏纂要方』13, 『玉関要訣』2, 『千金方』875, 『凶経』25, 『千金翼方』324, 『修真秘旨』1, 『救急方』3, 『古今録驗』16, 『延年』1, 『必効方』2, 【楊損之】1, 『深氏』2, 『范汪』2, 『外台秘要方』283, 【劉禹錫】1, 『伝信方』1, 『食医心鑑』8, 『楊氏産乳集驗方』3, 【楊玄操】1, 『元和紀用経』15, 『指迷賦』1, 『刪繁本草』1, 『京畿』2, 『仙人水鑑図訣』85, 『北夢瑣言』1, 【秦承祖】2, 『小兒玉訣』68, 『三十六種』32, 『四十八候』47, 『石壁経』40, 『太平聖恵方』2458, 『蘇沈良方』26, 『小兒宮氣集』7, 『万全方』57, 『王氏博濟方』63, 『簡要濟衆方』11, 『靈苑』51, 『小兒斑疹備急方論』16, 『官局』2, 『衛州書』1, 『傷寒類証活人書』225, 『太医局方』(太平恵民和剂局方)87, 『聖濟経』10, 『小兒藥証直訣』251, 『錢乙附方』31, 『嬰孺方』594, 『衛生家宝小兒方』1, 【義叔和】1, 黄庭堅【魯直】1, 『濟生全生指迷方』21, 『養生必用方』43, 『楊大鄴嬰兒論』16, 『童子秘訣』2, 『嬰童宝鑑』188, 『茅先生方』197, 【漢東王】114, 『漢東王先生小兒形証方』44, 『保生信効方』13, 『傷寒証治』7, 『旅舍備急方』4, 『譚氏殊聖』97, 『丁左蔵方』13, 『九籥衛生』22, 『劉洙瘡疹訣』2, 『鷄峰備急方』34, 『恵眼観証』120, 『莊氏家伝』201, 『鳳隨経』68, 『飛仙論』4, 『宝童方』13, 『聯珠論』2, 『吉氏家伝』300, 『聚宝方』54, 『五開貫真珠囊』22, 『張渙方』440, 『張渙遺方』5, 『張氏家伝』140, 『孔氏家伝』78, 『陳防禦家伝』2, 『呉氏家伝』10, 『趙氏家伝』49, 『王氏家伝』4, 『董氏家伝』1, 『陶氏家伝』5, 『朱氏家伝』53, 『班防禦方』3, 『胡氏家伝』4, 『安師所伝方』15, 『劉氏家伝』121, 十一家皆長沙医工(【鄭愈】など)247等であった。

『幼々新書』は巻40で主な引用書を解説するが, 『太平聖恵方』(992年)以後を近世方書として挙げており, 北宋初頭以前は前代方書, 以後は近世方書と判断した。引用箇所の内, 近世方書が占める割合は約6割であり, 『幼々新書』は宋代医籍の影響を強く受けている。一方『幼々新書』が前代方書として挙げる医籍には『石壁経』『華佗九候論』『小兒玉訣』など秩書を含む。また小児科領域に限定せず, 『肘後備急方』『諸病源候論』『千金方』『千金翼方』など重要書の条文を多量に引用する。